



アストンマーティン Valkyrie、スパ・フランコルシャン 6 時間 レースにて世界選手権自己最高の 4 位フィニッシュ

- アストンマーティン THOR チーム、FIA 世界耐久選手権で Valkyrie 自己最高成績を達成
- ハリー・ティンクネルとトム・ギャンプルの英国人コンビ、WEC の好調な滑り出しで 2 連続ポイント獲得
- Valkyrie、WEC の過去 4 戦で連続ポイントフィニッシュ
- アストンマーティン、WEC ハイパーカークラスのマニュファクチャラーズランキングで 4 位に
- Valkyrie は、FIA 世界耐久選手権と IMSA という 2 つの世界最高峰スポーツカーシリーズの両方で戦う、唯一の公道仕様ベースのハイパーカー



2026 年 5 月 10 日、スパ・フランコルシャン（ベルギー）：

アストンマーティンのハイパーカーValkyrie がスパ・フランコルシャン 6 時間レースにて FIA 世界耐久選手権（WEC）自己最高の 4 位に入り、来月のル・マン 24 時間に向けて強力な基盤を築きました。

昨年カタールでデビューしてから WEC10 戦目を迎えた今回、トム・ギャンプル（英国）とハリリー・ティンクネル（英国）が駆る圧巻のブリティッシュ・ハイパーカーValkyrie は、白熱の激戦の末に優勝からわずか 5 秒差でフィニッシュラインを通過し、耐久レースならではの最高のアクションを見せてスタンドを大いに沸かせました。

アストンマーティンのワークスチーム THOR の Valkyrie 007 号車は、残り 2 時間の時点で巧みな戦略的判断とティンクネルの見事なオーバーテイクが功を奏し、先頭争いに躍り出ました。セーフティカー導入のタイミングも、燃料補給と戦略調整に味方します。

ティンクネルが 1 周の間に鮮やかなオーバーテイクを 2 つ決めて 10 番手から 8 番手へと順位を上げた後、最終盤の 2 つのセーフティカー・ピリオドを経て、ギャンプルが 2 位を巡って戦う 5 台のマシンの 1 台となっていました。最後のリスタートで、ギャンプルはオー・ルージュでスピンしてしまった Alpine をうまく避け、最後の 5 分で Toyota をオーバーテイクして 4 位に浮上し、息をのむ猛ダッシュでフラッグを通過しました。

マルコ・ソーレンセン（デンマーク）とアレックス・リベラス（スペイン）のもう 1 台の Valkyrie 009 号車も、最後のセーフティカー・ピリオドの原因となった不運に見舞われなければ、ギャンプル/ティンクネル組と同様のポイント獲得を果たせたかもしれません。ソーレンセンとリベラスはともにトップ 10 内を好調に走り、最後から 2 番目のリスタートではソフトタイヤのスピードを活かせる絶好の位置につけていましたが、リベラスが 5 番手を追い越そうとしたときに高速区間のケメルストレートで芝生に逃げることを余儀なくされ、スピンしたことでリタイアせざるを得なくなり、素晴らしいパフォーマンスを見せていただけに残念な結果となりました。

今回は Valkyrie の WEC 自己最高成績であっただけでなく、007 号車にとってはプログラム開始以降の最高成績であったと同時にドライバーの英国人コンビにとっては 2 連続のポイント獲得ともなりました。アストンマーティンはハイパーカークラスのマニュファクチャラーズ選手権で 4 位、ギャンプルとティンクネルはドライバーズランキングで 9 位に入っています。

Valkyrie は、昨年の富士（日本）と年末のバーレーンを合わせ、4 戦連続ポイント獲得と記録を伸ばしています。金曜日の予選では、両 Valkyrie がハイパーポールに進み、グリッド 6 番手と 7 番手を獲得する新記録も達成しました。

次回 WEC は 6 月 13 日～14 日に開催される世界最大のモーターレース、第 94 回ル・マン 24 時間へと舞台を移し、最大の山場を迎えます。Valkyrie も、1959 年にロイ・サルヴァドーリ（英国）とキャロル・シェルビー（米国）が伝説のレーシングカー DBR1 でアストンマーティンにもたらした記念すべき総合優勝に加える新たな勝利を狙います。

ハリー・ティンクネル、アストンマーティン Valkyrie 007 号車ドライバー (WEC) :「信じられないようなレースでした。最初のスティントでは、後で巻き返すのだから、ただ落ち着いて燃料節約に努めよう、と自分に言い聞かせていました。この選手権とレースでは、このサーキットで驚くようなことが起きます。最高のレースでした。昨年から今日まで、これほどまでにマシンを改良させてきたチームを最高に誇りに思います。今日のレースではそれが本当によく表れていました。常に超高速というわけではなかったものの、電光石火の走りもあり、今回からは多くを学び、それをル・マンに持って行きたいと思います。重要なのは、第1、第3セクターで好調だったことです。これらはル・マンに最も近いセクターなので、とても楽しみです」

トム・ギャンプル、アストンマーティン Valkyrie 007 号車ドライバー (WEC) :「まったく予想していませんでした。残り2時間というところで11番手にいたので、好調なスピードを出せていたのに少々残念なレースになるだろうと思っていました。ところがその後、状況が大きく変わりました！レース終盤のセーフティカー導入が有利に働き、前に進むことができました。フラッグに向けた最後のダッシュでは危うい場面もあり、オー・ルージュで Alpine が目の前でスピンのときには、これまでの人生が走馬灯のように目の前を流れていきました。巨大クラッシュまであと10インチというところで、しばらく心臓がバクバクしていました。どうにか Toyota をきれいに追い越し、最後には2位を巡る素晴らしい戦いもありました。チームを心から誇りに思っています。レースの最後には先頭はかなり迫ることができましたし、2連続でポイント獲得を果たし、しかもこれほど好調に獲得することができました。これは、ル・マンに向かう中で、大きく士気を高めることになると思います」

アレックス・リベラス、アストンマーティン Valkyrie 009 号車ドライバー (WEC) :「結果に関わらず、それでも全体的に確実に良い週末でした。好調な姉妹車の007号車がもう少しで表彰台に届く好調なフィニッシュを決めたことからわかります。ここまでの前進に満足してよいと思います。最終的に、チームの雰囲気としては、ル・マンに向けて自信を持って臨んでいます。これまでの前進に満足してよいと思いますし、24時間レースでまた一歩、歩を進める準備はできています。チームの懸命な努力と、これだけ速いマシンでレースさせてもらえることに、感謝しています」

マルコ・ソーレンセン、アストンマーティン Valkyrie 009 号車ドライバー (WEC) :「もっと良い結果となって当然でした。最後の20分から30分に起きたことは少々不運で、理想的ではありませんでしたが、私たちは必ず立ち直ります。マシンが上位で戦えたのは素晴らしかったです。今は結果にひどくがっかりしています。今日、2台のうちどちらかは表彰台を獲得できたはずだと100%確信しています。全員が心から欲しいと思っていた最初の表彰台獲得がお

預けになったのは残念です。チームは良い仕事をしてくれましたし、マシンは超高速でした。ル・マンでまた戻ってきます。そこで良い結果を出せることを願っています」

イアン・ジェームズ、アストンマーティン THOR チーム代表：「最高に興奮しました。一日中、心拍数が大きく揺れていました。2台の Valkyrie は、レースを通してトップ 10 内で激しく戦ってくれました。アレックスに起きたことを考えると、当然少々ほろ苦い思いもありますが、4位フィニッシュは素晴らしい成績です。007号車の4位は、これまでの懸命な努力の成果です。トムは今年ずっと絶好調で、IMSA GTD のマシンで見事な仕事ぶりを見せています。今回は彼の実力と、彼がこのクラスで戦うべきドライバーであることを見せつけてくれました。Toyota の外を回ってレ・コームに入っていくのは大変な動きでしたが、彼はそれをうまくやってのけました。チームは素晴らしい仕事をしました。私たちは最後にソフトタイヤに賭けましたが、そのおかげでアレックスは前を走る Alpine よりあれほど速く走れました。ファンからすれば、現在これ以上のレースは地球上にありません。これだけの数のマニュファクチャラーが上位 6 チームにあるのは、スポーツカー・レースの水準の高さと、エキサイティングさの証拠だと思います」

アダム・カーター、アストンマーティン耐久モータースポーツ責任者：「スパ・フランコルシャン 6 時間ほどの激戦レースで 4 位フィニッシュできたのは素晴らしい成績であり、アストンマーティン THOR チームにとっては来月のル・マン 24 時間レースに向けた準備にとっても良いスタートとなりました。Valkyrie はスパ・フランコルシャンの週末を通して高い競争力を発揮しました。一生懸命努力を続け、ようやく好調なフィニッシュで報われたハリーとトムのためにうれしく思います。最後に首位とわずか 5 秒差でレースを終えたことは、現在どれほど高く競争力を上げてきているかを明確に示すものであり、6 月という重要な月を前に十分に期待できる要素だと思います」



**アストンマーティン Vantage、
世界耐久選手権 LMGT3 クラス導入後初の
スパ・フランコルシャンの表彰台を獲得**

- **The Heart of Racing、スパ・フランコルシャン 6 時間で 2 位フィニッシュ**
- **イアン・ジェームズ、ザック・ロビション、マッティア・ドゥルディが激戦のスパ・フランコルシャンで表彰台獲得、世界選手権のスタートに弾みをつける**
- **アストンマーティンの最も成功を収めているレーシングカー、アストンマーティン Vantage がスパ・フランコルシャンで 17 度目の WEC 表彰台**

アストンマーティンで最も成功を収めているレーシングカーの Vantage が、The Heart of Racing チームとドライバーのイアン・ジェームズ（英国）、ザック・ロビション（カナダ）、ワークスドライバーのマッティア・ドゥルディ（イタリア）の大活躍により、スパ・フランコルシャン 6 時間の LMGT3 クラス 2 位を獲得しました。

この成果は、強力なポイントフィニッシュに向けて戦う中でリタイアを余儀なくされた開幕戦イモラからの挽回となり、チームのチャンピオンシップ挑戦に再び火を付けました。

ハイパーポールに歩を進めた後、ロレックス・デイトナ 24 時間のポールシッターだったロビションがグリッド 2 番手を獲得したことで、ジェームズはクラスの前ローからスタートしました。チーム代表でもあるジェームズは、そのポジションをキープしながらレース序盤でダブルスティントを務めました。

やがてジェームズはハイパーカーとの接触に見舞われますが表面的な損傷で済み、6 番手でロビションに交代します。ロビションは順位を戻し、4 番手を確保しました。

終盤の連続セーフティカー導入でレースがリセットされると、ドゥルディが王道の攻めを仕掛ける舞台が整いました。表彰台獲得に向けた激闘の末、ドゥルディは 3 位でフィニッシュしましたが、先頭走者がピットレーン違反で 5 秒のペナルティを課されたことで 2 位に繰り上がりました。

ジェームズは次のように述べています。「2位を獲得できたのは素晴らしいことです。自分も役割を果たし、ザックとマッティアも素晴らしい仕事をしてくれました。チームも一日中完璧でした。表彰台に再び立てたのも最高でした」

スパ・フランコルシャンでの2位は、2012年以來、Vantageにとって17度目の表彰台となります。この間、Vantageは5度のクラス優勝も果たしています。

昨年に世界最高峰のGT3レースであるスパ・フランコルシャン24時間レースを制したVantage GT3は、ウルトラ・ラグジュアリーなロードカーのVantageと同じメカニカルアーキテクチャを採用し、アストンマーティンの実績ある接合アルミシャーシを中心に組み立てられ、強力な4.0リッターV8ツインターボエンジンを搭載しています。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-bQEAX6VnHinku3qq>

アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブトレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上の国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラグオンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp